

## 広島に行って感じたこと

五泉中学校 3年 高野 航太郎

私はこの夏休みに、五泉市平和教育プログラムの一環として、広島で平和記念式典に参加する機会を得ました。私は広島に投下された原爆の被害の実態や原爆が投下された当時何が起こったのかを考えながら、広島に向かいました。

訪問1日目の平和記念資料館見学では、原爆で破壊された広島の街並みや爆発に巻き込まれて肌が焼けただれている人、苦しんでいる人の写真や資料を見学し、大きな衝撃を受けるとともに核の危険性、凶悪性を知ることができました。その中で一番印象に残っているのは、原爆により、ボロボロになった眼鏡です。眼鏡が印象に残っている理由は、残された家族への形見がそれしか残らなかったからです。この眼鏡を見て、「命は尊いが、亡くなる時は一瞬で跡形もなくなってしまう。」ということを知り、怖いと思いました。またやけどでボロボロになった人の写真も忘れられません。私は、改めて、自分の大事な家族が原爆でなくなってしまうらどうしようと考えました。

訪問2日目の平和記念式典への参加では、99か国とEU代表部、国連などの多数の国が参列していました、こういう多くの国の人が一度に集まって原爆、世界平和について考える機会はとても大切で、これからも続けていってほしいと思いました。

平和記念式典後のひろしま子ども平和の集いでは、被爆当日に5万4千人もの方が原爆で亡くなったことや世界には核爆弾はたくさん残っていること（推定12,520発）などを聞きました。原爆で亡くなった人の多くは子供や女性だったことを知り、自分と同じ年代の人が、何の罪もないのに突然、命を奪われたことに悲しみと怒りを感じました。また、原爆の後遺症で未だに苦しんでいる人がいることを聞いて、原爆は二度と使ってはいけない、戦争はしてはいけないと強く思いました。

平和の集いの後、被爆者の方の話も聞きました。その話の中で「原爆が落ちた後の広島は焼け野原になり、周りにはお化けみたいに皮膚が焼けただれている人や爆風で亡くなった人の死体などがあって、とても恐ろしかった。」「何よりも命を大切にしてください。」ということを知り、改めて原爆の悲惨さ、命の大切さを再認識しました。

最後に、今回、広島を訪問して、原爆の悲惨さや被害について、自分ごととして考える貴重な体験をすることができました。今後は、体験、学習した「人の命はとても尊く、粗末に扱ってはいけない」ということ、「原爆は多くの人の命、町を一瞬にして破壊し、生き残った人の命も苦しめ、奪ってしまう。人が

使ってはいけないもの」ということを周りの友達や家族に積極的に伝えていきたいと思います。また、戦争や紛争などの争いはあってはいけないことだと感じました。そのため、私は、今後、戦争や紛争についてのニュースを見た場合、友達などの周りの人同士でお互いの考えを共有し、戦争や紛争関係の募金に参加するなどの行動をしていきたいです。この行動を通して、世界に少しでも平和が広がってほしいと願います。